

『召しにふさわしく⑤』

'22/08/14

聖書箇所：エペソ人への手紙 4 章 1-3 節（新約 p.377）

皆さんは、「クレーマー」という言葉をご存知だと思います。その意味するところですが、元々は、「要求者、請求者」の意だったようですが、ここ日本で最近使われる意味としては、「商品の欠陥、客への対応の仕方などについて、しつこく苦情を言う人。特に、その苦情が言いがかりと受け取られるような場合に言う。」と説明されておりました。また、こんな言葉を皆さんは、ご存知でしょうか？「モンスター・ペアレント」や、「モンスター・ハズバンド」、「モンスター・チルドレン」に、「モンスター・ペイシエント」などという言葉もあります。…所謂、自分の意見を強引に押し付けて、無理難題を通そうとするような…、そういった人々を称するような言葉なのですが、確かに、近年、こういった傾向が全体的に強くなってきているのかも知れません。

しかし、聖書のみことばはこう教えます。これも、現代風の言葉を使うなら、「神様によって救われて…、キリストの者とされたあなたは、キリストの品格を身に付けていきなさい！」って…。その代表例が、エペソ 4:1 のみことば、『召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』という教えです。神様によって救われた皆さん…、キリストの贖いによって変えられ…、そのキリストの尊い血によって清められたあなたには、その神様の栄光を…、神様の御性質を現わしていくという務めと責任が与えられているのです。

何故なら、それこそが、神様が私たちを救ってくださった目的でもあったからです。I ペテロ 2:21 のみことばはこう教えます、『あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。』…こう、みことばが教えるように、イエス・キリストの歩みは…、また、その生き方は、私たちにとっての模範であるはずで、だから、救われた私たちは、イエス様に倣って歩んでいこうとするのです。

命題：神は、クリスチャンがどのように生きることを願っておられるのでしょうか？

ここ、エペソ 4:1-6 を通して、私たちは、神様が、私たちクリスチャンに対して、どのような歩みをするかを願っておられるのか、ということを読んでいこうとしております。今日も、初めに、エペソ 4:1-2 のみことばをお読みします。…どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 4:1-2 をご覧ください。

1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。

2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、

I・謙遜 ! (2 節)

まず、1 番最初に挙げられていた資質である「謙遜」について…、皆さん、覚えてくださっていますか？ ⇒この当時には、「謙遜」などというのは、多くの人が立派であると考えような…、所謂、美德ではありませんでした。いや、それどころか、恐らく、「謙遜」という言葉さえも無かったような…、そんな時代でした。しかし、真の神様のことを知った者は…、その神様の一方的な愛と憐れみによって救われたのだということを知り、自分は、他人に何かを誇ったりできるような立派な人間ではない…。私は本当に、心の貧しい人間なのだ…。」ということに気が付き…、自ら進んで…、へりくだろうとするのです。

II・柔和 ! (2 節)

その次に、私たちが学んだ資質は「柔和」でした。…「簡単に怒ったりしないこと」です。神様によって、

本当の自分自身を知らされ、聖書の教える謙遜というものを身に付けた人間は、自然と、柔和にもなります。本当に霊的に成熟したクリスチャンは、こと、自分に関しては、悪く言われても…、侮辱されても、例え、多少の不利益をこうむったとしても、容易に取り乱したり、感情的になったりしなくなっていくのです。

III・寛容 ! (2 節)

先週に学んだ、3つ目の資質(=態度)は「寛容」でした。…簡単に言うならば、「心が広くて、他人の言動をよく受け入れること」です。また、それだけではなく…、自分がどのように行動すれば、自分の周りの人たちが神様からの祝福をより多く得られるのか…、そういったことを考えて、行動する人のことです。相手に優しく教えることが、相手を神様により近づけるなら、そのようにし…、相手を厳しく非難することが、その人にとって必要であるなら、その人に愛をもって、間違いを指摘するような…、そんな人物のことです。

ローマ 9:22 のみことばは、こう教えます。『ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どうでしょうか。』⇒ここで教えられているように…、まず、神様が『寛容』というものを私やあなたに示してくださいました…。だから、罪に汚れた私やあなたでも、直ちに裁かれることなく、救われることができたのです。

皆さんは、怒りっぽくありません？自分が損をした…、あるいは、侮辱された、傷つけられた、そういったことですぐに腹を立ててしまいませんか？…私たちの神様は恵みに富み、憐れみ深い御方でいらっしゃいます。また、それだけでなく…、この神様は、先週学んだように、『寛容』という面においても、私たちの模範であります。少し変な表現かも知れませんが…、神様の寛容とは、恐ろしいほどです。

だって、皆さん…、考えてみてください。一点の罪や汚れさえも御赦しにならないような…、完全に聖く正しい御方であられる神様が、あの、ノアの時代…、100 年以上の間、人間たちの罪を、また、その裁きを忍耐して下さっていたのです！100 年もの間、ノアの家族以外、誰も罪を悔い改めることなく、罪に罪を重ねていた者たちを、神様はずっと忍耐して下さっていたのです。

また、それだけではありません！神様は今も、私たち人間の救いのために、直ちに罪を裁くことなく、寛容でいて下さっています。イエス様が復活され…、天に昇っていかれた後、2000 年もの間、約束された再臨(=イエス様が再び、戻ってこられるという約束)がなされないのも、神の寛容…、言い換えれば、神様の忍耐の故なのです。

私たちが、「人を救うことができない…、人を受け入れることができない…」というのは、私たちの、人間としての器が小さいからです。…そうじゃありません？しかし、神様はそうではありません。神様は、どのような者であっても愛し…、その者が罪を悔い改め…、神様を信じるようになることを願っておられるのです。

しかし、私たちに与えられた時間は無限ではありません。いつか必ず、タイムリミットが来ます。神様の寛容は、いつまでも続くものではありません。どうぞ、1日も早く、真の造り主なる神様を受け入れ、その神様の与えようとして下さっている救いをご自分のものとしていただきたいと思っております。また、神様の…、そのような『寛容』に甘え過ぎるのではなく、益々、神様の御性質を、私たちクリスチャンも現わしていく者となっていくことを願います…。

IV・神の愛ゆえの 忍耐 ! (2 節)

ここまでが、先週までに学んできた内容です。その次、4つ目の態度・資質は、「忍耐」です。しかも、それは神様の愛というものを伴った「忍耐」です。ここで、もう1度、エペソ 4:2 を読ませていただきます。

2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、

●ここで使われてある「忍ぶ」という言葉の意味！

ここ2節には、『愛をもって互いに忍び合い(なさい)…』とあります。「忍ぶ」、つまりは、忍耐のことです。皆さん、覚えてくださっていますか？実は、先週、『寛容』という言葉が学んだ時にも、「耐え忍ぶ(=忍耐)」というような意味がありました。じゃあ、具体的に、ここで『忍び合(う)』と訳されてある言葉(ἀνέχομαι)と先週に学んだ『寛容』とは、どう違っているのでしょうか？⇒実は、今日学んでいる「忍耐」という言葉には、実践を伴うような意味があるのです。ですから、ここで、『忍び合(う)』と訳されてある言葉は、「忍耐する、耐え忍ぶ」というような意味だけでなく、「相手の言い分に耳を傾ける、相手を赦す」というような…、実際の行動までを指定するような意味が含まれているのです。

ですから、このみことばである、『忍び合い(なさい)』ということの実践は、ただ、相手の嫌なところや迷惑を受けたことに関して、ただ我慢すれば良いというのでは不十分です。相手のことを赦し…、必要であれば、あなたの方から時間を取って…、あなたの側から心を開いて…、相手の言い分を聞いてあげるような、そんな実際の行動が必要なのです。

●「忍耐」の必要性

ところで、私たちは、ここエペソ 4:2 から、4つの言葉を学んできましたが、実は、原語のギリシヤ語の文章を直訳すると、こんな風になります。「すべての謙遜と柔和、また、寛容をもって、愛の内に、あなたがたはお互いを赦し合いなさい。…」皆さん、分かってくださいますか？実は、これまで学んできた、『謙遜、柔和、寛容』も…、すべては、この最後の命令である、「お互いに赦し合いなさい！」という教え(=命令形)を補うための言葉なのです！

…と言いますのは、私たちに、絶対に…、この、「赦し合う」ということが必要だからです。…確かに、聖書のみことばは教えます、「イエス様を信じ、救われた者は、神に属する者となったし、キリストに似た者へと変えられていく」って…。しかし、この中の誰一人…、「私は、もう一切の罪を犯さなくなった！なんていう人はおられません！…残念ながら、私たちは、この地上で完全になることなど有り得ないのです！例えば、どんなに信仰が成長したとしても…。だから、人を喜ばせようとして、逆に、傷付けてしまう時もあり得るし…、良かれと思ってしたことが、逆に、相手を悲しませてしまうことだって有り得るのです。ましてや、私たち人間は、生まれながらの罪の故に、いつの間にか、自己中心的な考えや行動に走ってしまいがちです。

だから、パウロは言うのです！「そこには、すべての謙遜と柔和、寛容が必要なのです」って…。だって、私たち…、自分のことは棚に挙げて、すぐに他人に対して腹を立てるじゃないですか。やれ、「自分の気持ちを分かってくれていない！」とか、「普通だったら、こうするはずだ！」と言って…、結局は、自分が基準であり、自分の思い通りに人が動いてくれないことに腹を立ててしまうのです！皆さんだってそうでしょ？

ここ2節の、『忍び合(う)』という言葉には、『愛をもって…』という言葉でもって補足・説明がなされています。これまで度々お話ししてきましたように、ギリシヤ語には、「愛」を表わす言葉が数種類あって…、ここでは、その内の、「アガペーの愛」という言葉が使われています。つまりは、神様の愛です。神様が、誰彼の区別なく、すべてのものを愛して下さるような…、そのような無条件の愛です。

…と言いますのも、私たちがすぐに条件を付けて、人を愛さないで良い理由を付けてしまいませんか？「この人は、自分とは全く違うタイプの人だから…。この人には昔、こんなことを言われた・されたから…。」…こんな風に、私たちはすぐに自分勝手な理由を言い訳に、人を愛さないで良い理由を付けてしまうのです。そうして、自分の愛しやすさだけ…、自分に良くしてくれる人だけを愛そうとしてしまいませんか？

マタイ 5:43-48 で、イエス様は何と教えてくださいましたか？『43 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださ

るからです。46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしてはおりませんか。47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。』⇒いかがでしょう？イエス様は、自分を愛してくれる人“だけ”愛せば良いとおっしゃってられましたか？そうじゃなかったでしょ！それは…、むしろ、取税人や異邦人の…、つまり、真の神様を知らない者たちの特徴です。私たちは、『悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださる』ような神様を模範としているのです。

私たち人間の愛…、つまり、ギリシヤ語でいうところの、エロス(έρως?)の愛や、フィリア(φιλία)の愛ではこういったことはできません。何故なら、私たち人間の愛には必ず何らかの条件が伴うからです。だから！そこに、信仰が必要なのです。イエス様を信じ、救われた私たちには、「神の愛」が注がれているのです。ローマ 5:5 のみことばは、こう教えます、『この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。』と⇒このように、救われた皆さんには、神の愛が注がれて…、神の愛を実践したい！という思いがあるはずなのです。

イエス・キリストを信じておられる皆さん、皆さんには、神の愛が注がれています。…その証拠に、皆さんは、イエス様を信じ救われてから、変えられたはずですよ。神を愛し…、すべての人を愛そうとする者へと…。皆さんには、そのような願いがあるはずですよ。そうでしょ？

だから、神様は、私たちに必要な助けを与えてくださったのです！それが、聖霊なる神様と、この聖書のみことばです。それらによって、私たちは益々、神様の愛を実践できる者へと変えられていくのです。…実に、そういったことのためにも、「謙遜」が必要です！だって、私たちは己の弱さ・愚かさを知らないと、他人の弱さなどに共感できないし…、赦すこともできないでしょ。また、「柔和」や「寛容」だってそうです。私たち自身の器が大きくなって…、いろんな人を受け入れることができないで…、どうやって人を愛することができるのでしょうか？「忍耐」だって、そうです。いろんな弱さを持った私たち人間…、間違いを犯す人間…、罪深い人間を愛するためには、そこに必ず、忍耐が必要になってくるのです。

そうして、私たちがお互いを認め合って…、愛し合って、赦し合っていく時に、何が起って行くのか？…実は、それが、3節に続いていくのです。

V・平和！(3節)

どうぞ、エペソ 4:3 をご覧ください。5つ目の態度・資質が教えられています。それは、「平和」です。…私たちクリスチャンの故に、平和が与えられ…、それでもって神様の栄光が現わされていくのです。3節に、こうあります。

3 平和のさずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。

●『平和』の意味！

ここ3節で、『平和』(εἰρήνη)とありますが、この言葉が聖書で用いられる時、それは、主に、3つの状況を表わしています。①1つ目は、国と国との関係です。つまりは、戦争や争いの無いような、安全な状態を表わしています。②2つ目は、人間と人間との関係です。ですから、この言葉は、和解とか、和睦なども訳され得ます。③そうして、3つ目は、精神的な状態を表わします。人間の心の状態のことです。心の中に、災いや問題の無い状態のことです。ですから、この言葉は、聖書の中で、何度も日本語訳の聖書では平安と訳されています。…実は、ギリシヤ語の場合、平和も平安も同じ言葉で…、日本語のような、使い分けはないのですが…。

① 神様 との平和

聖書は、私たちにはっきりと教えてくれています。私たち人間と、真の神様とは、かつて、敵対関係にあったって…。ローマ 5:10 に、こうあります。『もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。』⇒このように、私たち全ての人間は、もともと…、神様とは敵対関係にあったのです！

また、ローマ 1:18-24 をご覧くださいか。『18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。19 それゆえ、神について知られることは、彼らに明らかです。それは神が明らかにされたのです。20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。21 それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちにならざるやうに代えてしまいました。24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。』

⇒このみことばには、『神の怒りが天から啓示されている…』とありました。実は、これとよく似た表現が、エペソ 2:3 にもあります。『私たちがみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。』って…。このような、神様の怒りを、どうして私たち人間は引き起こしてしまったのでしょうか？⇒それは、私たち人間が神を無視して…、その神様に逆らい続けているからです！だって、ローマ 1:20、『神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。』とある通りです。だから、続く 21 節でも、『彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず…』とあるわけです。…皆さんも、教会に来られる前であって…、心のどこかで神様のことを認めていませんか？例えば、自分の力ではどうしようもないような…、大変なことが起こったら、「神様、助けてください！ 守ってください！」と祈ったことがありませんでした？

実は、かつて…、信仰を持つ前の私も、「神様なんているもんか！」とうそぶいていました。…しかし、そんな私でも、本当に困った時には、「神様！ 助けてください！」と叫んでいました。…皆さんも、そんな感じではなかったでしょうか？それが、身勝手だと言うのです！あなたは…、いえ、「すべての人間は神様という存在を知っている！」…そう、神様のみことばは教えるのです。

どうぞ、18 節をご覧くださいと、『不義をもって真理をはばんでいる人々…』とありました。『真理をはばんでいる…』、つまり、「真理を拒んでいる！」ということです。…どうしてか？⇒その理由についても、このみことばは教えてくれています。それは、『不義をもって…』とあるように、罪が原因です！その人が、罪を犯したいのです！もしも、私たちが真理を受け入れたら、私たちは神が忌み嫌われる罪を悔い改めないといけなくなります。でも、そんなことはしたくない！罪を悔い改めたくないのです！だから、多くの人たちは、積極的に神の真理を追究し、それに従おうとはしないのです。まあ言えば、それは自分にとって都合が悪いからです。…そんな人たちに対して、神様は今も、怒りを持っておられます！その人が、真の神であられる御方を拒んでいるからです。

イザヤ 43:7 のみことばは、こう教えます、『わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。』⇒皆さんも…、また、皆さんの周りにもあるものも、全ては、神様が御自身の栄光のために造られたのです！…しかし、あなたは、その造り主である神様の栄光を現わしておられますか？もし、そうでないなら、1日も早く、この神様との平和を…、和解をもってください。

神様は、あなたが、1日も早く、自分の罪を悔い改めて…、救われることを願っておられるのです。

② 人間同士 の平和

しかし、クリスチャンの皆さん。皆さんは、救い主なるイエス様を信じ、救われたことによって、神様との平和を持ち…、神様と和解することができました。イエス様の、あの十字架がそれを成し遂げてくださったのです！だから、エペソ 4:3 でも、『平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。』とあるのです。『保ちなさい』、…つまり、「一旦は与えられた」ということです。しかし、せっかく、神様が与えてくださった平和であっても…、これはまた次回に学ぶ予定なのですが…、例え、一致であっても…、それを保てるかどうかは、私たちに懸かっているのです！だから、ここでは、敢えて…、『保ちなさい』とあるのです。

例えば、皆さん…。皆さんが教会に来られて…、救われた当初はどうでしたか？⇒恐らく、そこには、「神によって与えられた平和」があったはずですが。教会の中で、変な…、クリスチャン同士のグループの対立も無かったでしょうし…、「私たちは同じ主にある兄弟姉妹なんだ！」というような連帯感があったように思います。しかし、不思議なもので…、教会生活が長くなると、そのような新鮮で、神様に対する忠誠の思いや、従順の思いが薄れてくるのが、時々あるのです。いえ…、かえって、信仰生活が長くなってしまつと、人を見下したり…、人を勝手な基準で裁いてしまつたりしてしまうことがあるのです…。

だから、神はおっしゃるのです。『4 …あなたは初めの愛から離れてしまった。5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。』(黙示録 2:4b-5) …このように、私たちの愛は冷めてしまう可能性が十分有り得ます。

良いですか、皆さん。もし、皆さんが教会の誰かと問題があるなら…、もつと行ってしまつと、教会の誰かを愛せないのなら…、その原因は“あなた自身にある”のです。しかも、それはあなた自身の信仰の問題、神様への愛…、神様に対する従順の問題なのです。…だって、みことばはこう教えるじゃないですか。1ヨハネ 5:1-3、『1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』⇒いかがでしょう？皆さんは、教会の中に愛せない人がいないですか？あるいは、愛したくない人…、赦したくない人がいないでしょうか？

③あなたの中での 平安 !

もし、教会の中に、そういう愛せない人がいるなら、これだけは覚えておいてください…。あなたが、そういう選択をし続けるなら、神様はどんどん、あなたの内から祝福や感謝を奪っていかれます。また、罪が、あなたから本当の平安や満足も奪っていきます。…だって、罪とは、決して平和をもたらさないし…、決して満足しない“悪”じゃないですか。…満足したと思つても、すぐにまた、新しい…、別の欲望が湧き上がってくるのです。

どうか、皆さん、思い出してみてください。…皆さんが、誰かを憎んでいる時や、人に意地悪をしている時つて、神様への賛美ってありましたか？「こんな私を神が救ってくださった」というような感謝や本当の喜びがありましたか？…恐らく、そこにあったのは、かつて、救われる前の私たちが持っていたような…、自己中心的な満足であり、ひょつとしたら一時的な…、罪から来る虚しい快樂だけです…。

神様は、あなたが永遠に失うことのない、神様の平安を与えてくださったのです。しかし、あなたがそれをもつと大きなものにしていか…、あるいは、無くなることはないにしても…、小さなものにしてしまうのかは、あなた次第の選択であり、生き方に懸かっているのです。

以上、私たちがこれまでに学んできた5つの事柄は、決して、それぞれ、無関係ではありません。何故なら、ガラテヤ 5:22-23 が教える、御霊の実は、どのようなものでしたか？⇒「22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。…」⇒ここに挙げられている、9つの実の内、①愛、②喜び、③平安、④寛容、⑤柔和など、5つのものが、これまでの学びの中に出てきましたでしょ。

<励ましの言葉>

ガラテヤ 5 章のみことばが教えてくれているように、私たちが、益々、神様を愛し…、その神様に従っていくなら、私たちはもつと、素晴らしい御霊の実を結んでいくことができます。ガラテヤ 5 章のみことばも、はっきり教えてくれていることは、「私たちには選択がある！」ということです。…いつも、こういったことを申しますと、ある人たちは、「神様が、自然と、そのように私を動かしてくださるのではないですか？」というようなことをおっしゃる方がおられます。「信仰を持つ時も、神様が私を、そのように導いてくださっていたから、私は信じることができたのでしょ？」なんて…。

でも、本当にそうなのでしょう？⇒ある意味においては、確かに、そうです。間違いではないと思います。しかし…、大切なのは、みことばがどう教えてくれているか、ですよ？

その前に、簡単に紹介させていただきますと…、私の場合は違っていました。その時には、心臓をバクバク言わせて、人生の一大決心をしたことを覚えています。日時、時間までも覚えています。それは 1985/12/27、01:24 のことでした…(笑)。それは、私がイエス様を信じるという選択をした瞬間でした。その瞬間に私が救われたのかと言うと、恐らく、違うと思います。しかし、その瞬間に、自分が重大な決心を…、自分の人生を変えるかも知れない選択をしたという事は理解していました。ここにおられる皆さんの中にも、そういった方が大勢おられるのではないのでしょうか？

「神様が、自分に代わって選択してくださる？」⇒そういう時もあるのかも知れませんが、基本的には、そうではありません。…もしも、そうなら、聖書にある数多くの命令や勧め、また、励まし、あるいは、罰や呪いに関する事など、全く必要なくなってしまうですよ！

天の神様は、創造の初めから、私たち人間に自由意志というものを与えてくださっています。当然、そこには選択があり…、それ故に、責任も伴うのです。神様は、私や皆さんが自分自身の意志で…、つまり、選択でもって、神様を愛し…、その神様に従って行くことを期待し、願っておられるのです。…そうして、私たちが神様を信じる事ができた時に…、また、神様に従って行く事ができた時に、後になってから、「ああ、あの時に神様は私に助けを与えて、私が神様を信じる事ができるように…、神様に従って行く事ができるように、助けてくださっていたなあ…」と振り返ることができるのです。

ですから、今まず、私たちがすべきことは神様に祈りつつ…、神様に喜ばれることを選択していくことです。…どうぞ、皆さんに与えられた責任を…、選択を放棄しないで、正しい歩みをなして行ってください。そういったことが、皆さん自身の平和や喜び、また、本物の祝福へと繋がっていくはずですよ。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。